

## 「計画」

大津市立和邇小学校

## 令和 8 年度 我が校の学び力向上策

## 【県目標】第三期学び力向上滋賀プラン

夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学び力を高める。

## 【令和 8 年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ

- 発達の段階を踏まえた言語活動の充実
- 1人1台端末等の効果的な活用
- 自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

## 【市町の目標】

○一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育を実践する

○地域を愛し、多様な意見を認め、学びを生活に活用できる子どもの育成

## 【現状と課題】

## ○視点 1

(1) 基礎的な「読み・書き・計算」の力にかなりの個人差があり、新しい内容を学ぶ際に躓いたり意欲をなくしたりする児童が多い。基礎学力の定着を図る。

(2) タブレットについては、比較的ルールを守って使用できている児童が多い。タブレットを使った指導に、教師の個人差がある。

○視点 2 自分の意見をうまく伝えられなかったり相手の思いを汲み取れなかったりして、行き違いからトラブルになることが多い。協働的な学びを推進し、更なる授業改善を図っていく必要がある。担任をはじめ複数の目で集団を支えていく。

○視点 3 地域のかかわりが強く、地域の方々の学校に対する支援が整っている半面、家庭基盤は弱く、家庭教育に不安を抱える児童が多い。

## 取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例) 県学びのアンケート(児童生徒)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」 **肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

## 【視点 1】子どもたちが主体の授業づくり

| 取組事項                                       | 評価指標                                                         |
|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| ①授業やぐんぐんタイムを利用した「書くこと・計算」の基礎基本の補充          | ①児童アンケート評価項目「3. 授業が分かりやすく楽しい」80%以上                           |
| ②意見を伝え合ったり交流したりする「対話」を中心とした授業改善および協働する学習活動 | ②教職員評価「2. 協働する授業を通して伝え合う喜びやコミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫に努めた。」80%以上 |

## 【視点 2】学びを支え合う集団づくり

| 取組事項                                        | 評価指標                                   |
|---------------------------------------------|----------------------------------------|
| ①学年間での道徳交換授業や中学年以上の教科担任制を行い、様々な目から学年全体を支える。 | ①教職員評価「1. 支持的風土を育てる学年づくりを進めた」80%以上     |
| ②道徳教育・特活の充実を図り支持的風土を育てる                     | ②学年内で、道徳の授業を月に1回は交換する。80%以上            |
|                                             | ②児童アンケート評価項目「11. 友だちとなかよく助け合っている」80%以上 |

## 【視点 3】協働して取り組む学校づくり

| 取組事項                            | 評価指標                                                       |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------|
| ①コミュニティ・スクールを中心とした学習・体験活動を推進する。 | ①教職員評価「14. 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研究会の実施、地域人材の活用に努めた」80%以上 |

◇「学び力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

○4月の職員会議において、本校の目指す教育の方向性について確認するとともに、共通理解を図る。

5月の職員会議において、学び力向上推進リーダーが「学び力向上策」について説明するとともに、それぞれの取り組み事項に対する具体的な内容について協議し、実践を行う。家庭学習の充実を図るため、7月の学級懇談会にて家庭学習の方法について共通理解する。

○全員で取り組む具体的な内容については共通理解し、視点 1 については研究主任、視点 2 については道徳主任特活主任、視点 3 については教務主任が中心となって組織的な実践につなげる。

○定例職員会議では取り組みの状況等を共有し、児童保護者アンケート結果や全国学力・学習状況調査等の数値や意見等をもとに、各担当で中間評価を行う。10月の職員会議で改善策を共有し、後半の取り組みにつなげる。